

さくらの開花予想（第7回） （北海道地方）

〔概要〕

本年のさくらの開花は、北海道地方では平年より早い見込みです。

〔本文〕

さくらの開花は、一般的に気温が高いと早まり、気温が低いと遅くなります。今回の予想対象地域では、3月からこれまでの気温は、3月下旬に平年並だったほかは平年より高く推移しました。また、今後の気温は平年並か平年より高い可能性が大きいと予報しています。

このため、本年のさくらの開花は、北海道地方では平年より早い見込みです。

なお、北海道地方のさくらの開花予想は、ソメイヨシノの生育地が限られているため、エゾヤマザクラ、チシマザクラを対象としている地点があります。

〔参考〕

1. さくらは、夏頃に翌春咲く花のもととなる花芽（かが）を形成し、休眠に入ります。花芽は冬の低温に一定期間さらされると休眠から覚めます（休眠打破）。花芽は休眠打破のあと気温の上昇とともに生長し開花します。
さくらの予想開花日は、過去の開花日と気温のデータから予想式を作成し、これに、昨年秋からの気温経過と気温予報をあてはめて求めています。なお、気温予報には週間予報、1か月予報及び3か月予報を用いています。
2. 開花とは花が5～6輪開いた状態のことです。さくらの開花は、一般的に標高が100m高くなるごとに約2～3日遅くなります。
また、今回発表した地域のさくらの開花から満開までの期間は約3～4日です。なお、満開とは、花芽の約80%以上が開花した状態のことです。
3. さくらの開花を平年値（1971年～2000年の30年間の累年平均値）と比べる場合、「平年並」とは平年値との差が2日以内、「早い（遅い）」とは平年値より3日以上早い（遅い）ことをいいます。なお、「かなり早い（遅い）」とは平年値より7日以上早い（遅い）ことをいいます。
4. 開花予想は、各气象台や測候所の定めた標本木を対象としたもので、名所の開花とは異なることがあります。また、予想開花日には平均して前後2～3日程度の誤差があります。

資料1：2009年の各地のさくらの開花予想（予想開花日一覧・等期日線図）（4月15日発表）

今後のさくらの開花予想の発表は下表のとおりです。14時に発表する予定です。

	北海道
第8回（4月22日）	

